



熊本県人権フェスティバル

県民の皆さまに人権を身近な問題として考えていただくため、人権フェスティバルを開催します。この機会に人権について考えてみませんか?ご応募お待ちしております!



◆日時: 12月2日(日) 13時~15時40分

◆場所: 熊本テルサ1階 テルサホール

◆内容: ・ココロ隊ステージ

・ハートフルコンサート 出演 Hanna Bunya (はんなぶんや) さん

・講演 堀尾 正明さん 演題 『はぐくもう!思いやりの心は『ご近所の底力』』

◆申し込み方法 (先着500人まで)

郵便番号、住所、氏名、電話番号、参加希望人数(1件につき3人まで)、このフェスティバルを知ったきっかけを記入し、ハガキ、FAX、または熊本県人権センターのホームページからご応募ください。

【お問い合わせ・応募先】 熊本県人権同和政策課 人権フェスティバル係

〒862-8570 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

☎096-333-2299 FAX: 096-383-1206



2018 部落差別をはじめすべての差別をなくす 人権子ども集会フェスティバル in やつしろ

人と人がつながりあい、あらゆる差別のない「人権いきいきふるさとづくり」をめざしましょう!子どもからおとなまで、みなさんぜひご参加ください!

◆日時: 12月8日(土) 9時30分~15時

◆場所: 八代市総合体育館

◆内容

ステージの部

部落差別をはじめさまざまな人権問題について、人権についての劇や演奏、踊りなどの表現活動を通して、差別やいじめをなくす

バザー・体験の部

楽しく気軽に参加できる、人と人との交流の場として食品や物品などのバザー、ものづくりなどの体験コーナー

展示の部

人権に関する作品やメッセージ、学校や団体の活動や取り組みの紹介

人権パレード

みんなで一緒にパレードし、人権についてアピールする

【お問い合わせ先】 八代市人権啓発センター(人権政策課) ☎30-1711

八代市教育委員会学校教育課 ☎30-1673

水川町教育委員会学校教育課 ☎62-3313



町民文芸

短歌

汗びしよのシャツ脱ぎきれず手助けを
妻に頼みしこの情けなき

北野津 宮本 末秋

千早振る神代の窟姫ノ城

大野の山は紅葉かつ散る

北野津 井田 道寛

あぜ道のこびるが似合う太き手や

コスモスの風ほほにやさしい

西野津 古崎スエノ

眼は覚めて耳は覚めぬ夜明けの

台風の情報画面を見詰む

西野津 古崎 栄子

絵手紙の友の声にはげまされ

気合い入れ来る秋の夕暮れ

南鹿野 尾崎 京子

米寿をば迎え町よりお祝い金

思い掛けなし只々恐縮

吉本 橋村 正之

立神も矢山の峰も夕暮れて

上弦の月かすかに照らす

吉本 高瀬 道昭

俳句

春来れば優しく咲きし杏花
今枝切られ裸木と成りぬ

吉本 高橋 澄子

生かさされて心静かに晩年を

病ひとつを息災として

桜ヶ丘 宮崎敬四郎

箱車押す老人の箱の中

老いたる犬の横たわりおる

西上宮 村内 一誠

父・母と幾度と行きし熊本城

いつかきつと、今はリハビリ

上鹿島 前村 俊子

縁側に御萩供えて月見酒

北野津 宮本 末秋

黄金波一両電車ゆうゆうと

西野津 古崎スエノ

食欲の落ちてほほやせ亡母に成り

南鹿野 尾崎 京子

秋の鳩手の届くまで寄って来し

秋澄みや紅葉彩づく待つにけり

西野津 古崎 栄子

香山菊童子

香山菊童子

香山菊童子

香山菊童子

香山菊童子

投稿について

・楷書で記入し、漢字には全て読みがなをふって投稿してください。
・内容確認する場合がありますので、お電話番号を明記してください。
・毎月8日必着
※遅れて投稿された場合は掲載できない場合があります。あらかじめご了承ください。

投稿先
〒860-4814 水川町島地642番地
総務課 行政係 ☎52-7111



川端康成

をちよびつとひもとく

法道寺 本田 花風

この書き出しで始まる手紙は、大正10年(1921年)に書かれ、当時22歳だった川端康成が15歳の女性に宛てた、愛の言葉に溢れた内容、相手の女性は「千代」こと伊藤初代、川端の初恋の人だったという。この初代との恋愛をモチーフに、川端は『篝火』『非常』『彼女の盛装』といった、いわゆる「ちよ物」と呼ばれる作品を発表。この恋文は、川端文学を研究する第一級の資料といえるが、その手紙は投函されなかったと噂だ。

そこで「ちよ」(1919年、川端二十一歳、一高時代の三年、大正八年)に発表された。「ちよ」にまつわる作品、その検証は、川端康成論考(長谷川泉)や現代日本文学大系川端康成集で深く分析されているが、それを紐解き論ずることは過酷にすぎる。

「ちよ」は「伊豆の踊子」に登場する「千代子」に化身されて片隅に置かれている。そのために脳裏に残る「ちよ」は後年の「伊豆の踊子」の原型である。「ちよ」とせず「薫」としたのは、川端の初期の作品で現れる度々現れる「ちよ」像が描かれているが、複雑すぎて確証はできない。

(続く)